多排出資産の
マネージド・フェーズアウト

ネットゼロの世界に向け、公正な移行を実現しながら
多排出資産の早期廃止を促進する方法とは

2022年6月
日本語仮訳

GFANZ
Glasgow Financial Alliance for Net Zero

エグゼクティブ・サマリー

当翻訳は仮訳であり、原文との相違がある場合には原文を優先してください。

世界の平均気温の上昇を産業革命以前と比べて1.5℃に抑え、気候変動の最も深刻な影響を回避するために、多くの政府、企業、金融機関が、遅くとも2050年までに温室効果ガス（GHG）の排出をネットゼロにすることを約束しています。

これには、排出が低いまたは排出がゼロの新たな資産の開発、既存の多排出セクターの脱炭素化、および**多くの多排出資産の早期廃止**が含まれます。多排出資産は、気候変動リスクと財務リスク（ネットゼロ経済への移行に伴い座礁資産となるリスク）の両方をもたらす可能性があります。そして、発電所、航空機、船舶といったあらゆる分野において多排出資産が存在し、今日のグローバル経済において中心的な役割を担っています。

1.5℃整合の移行の達成に向けて、金融機関は脱炭素化に対する資金供給という重要な役割を担っています。しかし、多くの金融機関（銀行、投資家、保険会社）が多排出資産への資金供給を躊躇しており、目的が早期廃止によるGHG排出量削減である場合であっても多排出資産への資金供給を避けるケースが見られます。

本レポートは、多排出資産を廃止するという明確なコミットメントに基づく、**ネットゼロに沿った資金供給・運用のアプローチ**として、「マネージド・フェーズアウト（管理された段階的廃止）」を提案します。このマネージド・フェーズアウトというアプローチは、多排出資産を運用する企業が、秩序を保ち[1]　かつ公正に[2]　移行を実現するための戦略の一部にもなり得るものです。

「マネージド・フェーズアウト」というアプローチの推進は、企業や金融機関にとって、多排出資産からのダイベストメント（資金引き揚げ）以外の選択肢が生まれることを意味します。ダイベストメントは脱炭素化を促進する場合もありますが、ダイベストメントの結果、気候変動対策に対する意欲、情報開示、監督体制が不十分な企業や金融機関に多排出資産が譲渡された場合には、その資産の寿命を延ばし、さらにはGHG排出量を増加させる、という**意図せぬ結果を招く可能性**もあります。　また、多くの多排出資産は、代替技術が展開されるまでの間、短期的には運用とそのための資金調達が必要です。こういった懸念・検討事項は、新興市場や発展途上国（EM＆DEs）において特に重要です。ネットゼロを約束する金融機関や企業にとっての責任あるアプローチとは、ポートフォリオ上のGHG排出量を管理することであり、他者に譲渡ことではありません。

[1] GFANZは、「秩序ある移行」という言葉を、民間セクターの行動と公共政策の変化の両方が早期かつ意欲的に行われ、それによって移行に伴う経済的混乱（再生可能エネルギー供給とエネルギー需要のミスマッチなど）が抑制されるネットゼロ移行を指す言葉として使用している。規制当局などが使用する気候変動シナリオを開発しているNetwork for Greening the Financial System（気候変動リスク等に係る金融当局ネットワーク、NGFS）は、「秩序あるシナリオ」を「CO2排出ネットゼロ経済への早期かつ意欲的な行動」と定義し、「無秩序なシナリオ（行動が遅い、破壊的、急激、または予測できない）」と対比している。秩序ある移行では、物理的および移行期の気候関連リスクは、無秩序な移行やGHG排出量削減が計画的に達成されないシナリオに比べて、最小限に抑えられる。

[2] マネージド・フェーズアウトにおける公正な移行に関する詳細はBox Bを参照のこと。

マネージド・フェーズアウトには、本レポートで紹介されているように以下のようなメリットがあります。

- 秩序ある移行を支援する
- 多排出資産を持ちながら信頼できる移行計画を持つ企業の資金調達面での支障を緩和する
- 金融機関が多排出部門の企業との関係を維持し、ネットゼロへの移行を支援できる
- 公正な移行と重要なサービスの継続を支援するために、より広範なステークホルダーを引き込む

本レポートは、マネージド・フェーズアウトというアプローチを紹介すると同時に、ネットゼロを達成する戦略としてこのアプローチを適用するのが適切と考えられる資産を特定するための方法について概観を紹介しています。また、マネージド・フェーズアウトに活用し得る資金メカニズムの概観、信頼性の高い資産レベルのマネージド・フェーズアウト計画とはどういったものか、その特徴を示す初期ガイダンスが含まれています。

そして本レポートは、今後に向けて、これら3つの方法論をさらに発展させると同時に、以下の項目についても併せて開発が必要であると指摘しています。

- ネットゼロへの移行方法としてマネージド・フェーズアウトに取り組む際、その野心度と進捗を評価するためのフォワードルッキングな測定基準と目標
- マネージド・フェーズアウトのように、ネットゼロ達成に向けた戦略として多排出資産への投融資をする場合、それを許容する投融資方針・条件
- 信頼性の高い（セクター別・地域別の特殊性を盛り込んだ）多排出部門の**移行パスウェイ**と、このパスウェイを基に各資産の運用寿命を特定する能力
- 企業や金融機関が、ネットゼロ移行を達成する上で早期廃止が必要な資産を特定するためのツール
- マネージド・フェーズアウト計画を支援するための資金供給メカニズムに関するガイダンス
- マネージド・フェーズアウトを支援するための強力な政策（例えば、その国独自のネットゼロ目標を支援する政策の明確化等）

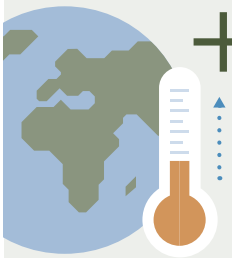
また本レポートでは、信頼性の高いネットゼロ戦略としてマネージド・フェーズアウトを確立し、世界経済の脱炭素化を後押しすべく、今後GFANZがパートナー団体と協力して進めるべき9つのアクションが示されています。

マネージド・フェーズアウトを推進するアクション

A 信頼性とインセンティブ	1	マネージド・フェーズアウトというアプローチへの期待の醸成
	2	金融機関や企業向けの移行計画ガイダンスやパスウェイへの、マネージド・フェーズアウトの組み込み
	3	GHG排出削減につながるマネージド・フェーズアウトの測定基準と目標の設定
B 資金供給方法の開発	4	資金供給メカニズムに関するガイダンス作成
	5	既存の資金供給メカニズムを超えるイノベーション
C 関連する資産の特定	6	マネージド・フェーズアウトを適用すべき資産を特定するための枠組みの作成
	7	マネージド・フェーズアウトを適用すべき資産を特定するためのツールの開発支援
D 影響力のあるプロジェクトの実施	8	新興国および発展途上国における気候変動対策に向けた民間資金供給促進のためにマネージド フェーズアウトを国別プラットフォームに導入
	9	経済全体の脱炭素化の一環として、マネージド・フェーズアウトを支援する公共政策のアクションを設定

多排出資産のマネージド・フェーズアウト

目的



+1.5C

世界平均気温の上昇を産業革命前より1.5℃に抑える

例えば…

排出が低いまたは排出がゼロ資産の開発

既存の多排出部門を脱炭素化

例えば…

多くの多排出資産の早期廃止

政府、企業、金融機関は、遅くとも2050年までに炭素排出量ゼロを達成することを約束

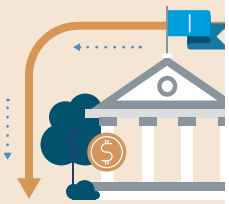
多排出資産

排出量の多い資産は、以下のような多くの分野で重要な機能を提供している

工業　建設　自動車　航空

早期廃止のための資金調達

金融機関や企業は、短期的には主要なサービスの継続をサポートしながら早期廃止の必要性を満たすことができる多排出資産へのアプローチを必要としている。責任あるアプローチは、ポートフォリオ上の排出量を管理することであり、他の誰かに渡すことではない。



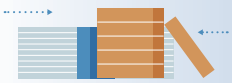
マネージド・フェーズアウトは、排出量の多い資産を早期に廃止するための、ステークホルダー参加型のネットゼロに沿った戦略である

このアプローチのメリット

秩序ある移行を促進

より**広範なステークホルダーを巻き込み公正な**移行とサービスの継続を支援することができる

金融機関が排出量の多いセクターの企業と関わりを持ち、ネットゼロ移行を支援することができる



多排出資産を保有するが信頼できる移行計画を持つ企業の資金調達面での支障を緩和する

マネージド・フェーズアウトをネットゼロのアプローチとして確立

フォワードルッキングな**測定基準と目標の開発**

早期廃止が必要な資産を**特定するためのツール**を作成

投融資方針・条件にマネージド・フェーズアウトを組み入れる

資金供給メカニズムに関するガイダンスを作成する

多排出部門に対する信頼できる移行パスウェイを確保する

公共政策はマネージド・フェーズアウトを支持する方向に舵を切る

詳細は、gfanzero.comをご覧ください。